

第5 2回えいが部「タンポポ」(1985年)

長距離トラックの運転手ゴローとガンがふらっと立ち寄った寂れたラーメン店。その店の店主タンポポが出すラーメンはお世辞にも美味しいとは言えない代物だった。夫に先立たれ、店を引き継いだもののラーメンの作り方がお粗末だったタンポポに同情したゴローとガンは、彼女にラーメン修行を行わせ、店を繁盛させることを誓う。ゴローの紹介や様々なツテで集まったラーメン通たちが各自の得意分野で手解きする厳しい修行の末、タンポポのラーメン店は生まれ変わって開店を迎える。

～これはラーメン・ウエスタンだ！～

監督・脚本：伊丹十三（64歳没） 父親は映画監督の伊丹万作

- ・ゴムデッポウ（1962年） ※伊丹一三名義初監督作品、第24回東京国際映画祭特別上映
- ・お葬式（1984年）
- ・マルサの女（1987年）
- ・マルサの女2（1988年）
- ・あげまん（1990年）
- ・ミンボーの女（1992年）
- ・大病人（1993年）
- ・静かな生活（1995年）
- ・スーパーの女（1996年）
- ・マルタイの女（1997年）

出演 山崎努(ゴロー)

- ・大学の山賊たち（1960年）
- ・赤ひげ（1965年）
- ・姿三四郎（1965年）
- ・続・男はつらいよ（1969年）
- ・八つ墓村（1977年）
- ・ダイヤモンドは傷つかない（1982年）
- ・ハリマオ（1989年）
- ・GO（2001年、東映）
- ・クライマーズ・ハイ（2008年、東映/ギャガ）
- ・おくりびと（2008年、松竹）[31]
- ・日本のいちばん長い日（2015年） - 鈴木貫太郎 役[36]
- ・モリのいる場所（2018年、日活） - 主演・熊谷守一 役[40]
- ・長いお別れ（2019年、アスミック・エース） - 東昇平 役

宮本信子(タンポポ)

- ・日本春歌考 (1967年) - 里見早苗 役
- ・男はつらいよ 純情篇 (1971年) - 絹代 役
- ・ときめきに死す (1984年) - 旅館の女将 役
- ・あ・うん (1989年) - 門倉君子 役
- ・ファンシイダンス (1989年) - 塩野静子 役 (友情出演)
- ・ラヂオの時間 (1997年) - 山崎ルミ子 役
- ・眉山・びざん・ (2007年) - 河野龍子 役
- ・いちごの唄 (2019年) - 園長先生 役

渡辺謙(ガン)

- ・瀬戸内少年野球団 (1984年、日本ヘラルド映画、篠田正浩 監督) - 中井鉄夫 役
- ・タンポポ (1985年、東宝、伊丹十三 監督) - ガン 役
- ・海と毒薬 (1986年、日本ヘラルド、熊井啓 監督) - 戸田 役
- ・幕末純情伝 (1991年、松竹、薬師寺光幸 監督) - 坂本竜馬 役
- ・ラヂオの時間 (1997年、東宝、三谷幸喜 監督) - トラック運転手 役
- ・絆・きずな・ (1998年、東宝、根岸吉太郎 監督) - 佐古章生 役
- ・溺れる魚 (2001年、東映、堤幸彦 監督) - 御代田 役
- ・陽はまた昇る (2002年、東映、佐々部清 監督) - 大久保修 役
- ・T.R.Y. (2003年、東映、大森一樹 監督) - 東正信 役
- ・新・仁義なき戦い / 謀殺 (2003年、東映、橋本一 監督) - 藤巻寛明 役
- ・北の零年 (2005年、東映、行定勲 監督) - 小松原英明 役
- ・明日の記憶 (2006年、東映、堤幸彦 監督) - 佐伯雅行 役 (主演)
- ・沈まぬ太陽 (2009年、角川映画、若松節朗 監督) - 恩地元 役 (主演)
- ・はやぶさ 遙かなる帰還 (2012年、東映、瀧本智行 監督) - 山口駿一郎 役 (主演)
- ・Fukushima 50 (2020年、松竹、KADOKAWA、若松節朗 監督) - 吉田昌郎 役

タンポポの原案は、種村季弘原作の『食物漫遊記』。食をめぐる映画を作ることを決意するが興行への不安は大きい。そこで伊丹は映画化への糸口を見つける。しりとり形式で摩訶不思議なエピソードが連なるルイス・ブニエール監督の『自由の幻想』(74年)を観たことで、この形式でなら、『食物漫遊記』のような食にまつわる映画を撮ることが可能と思いついた。

それから数日後、テレビで寂れたラーメン店を番組の力で人気店に作り変えるというプロジェクトが放送されていた。まるでこれは西部劇——寂れた町へやってきたガンマンが、問題を解決して去っていくようだと感じ、〈ラーメン版『シェーン』+食物版『自由の幻想』という組み合わせによって生まれたのが『タンポポ』である。